

10月1日(月)

神を宣べ伝える

聖書朗読 イザヤ 1：1～17

イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、「私達に父を見せて下さい」と言うのですか。

ヨハネ 14：9

室内飼いの猫を飼っていたことがありました。主人にとってもかわいがられていたもので、懐いていました。主人が仕事から帰ってくる時間になると、猫は起きあがって、玄関で彼の足音が聞こえるのを待っていました。猫は主人に愛されていることを知っていたのです。

本日の聖書朗読の箇所では、動物ですら自分の主人を理解しているのに、人間が自分達の主人である神様を理解していない不条理について書かれています。イスラエルの民たちは神様を拒否し、神様に「背を向けて離れ去った」のです。

神の民である人々から拒否され、神様は大変悲しく感じられたのではないのでしょうか。神様は私達を愛しておられますから、私達が神の許にすることを望んでおられます。「エフライムよ。わたしはどうしてあなたを引き渡すことができようか。イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができようか」(ホセア 11:8)。

今日、まことの神様の存在についてご存知ない方が大勢います。神様は私達を創造され、愛して下さいます。そのような神がおられるということを、私達はもっと宣べ伝えていくべきではないでしょうか。この恵みを分かち合わないなんて、もったいないではありませんか。

讃美歌 502

祈り 神様、私を造って下さり、どんな時でも愛して下さいありがとうございます。福音を宣べ伝えられるよう、勇気をお与え下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

コニー・S・スティネット
オクラホマ州タレクワ

今日の力

2018年10月1日～10月7日

翻訳 伊藤 若菜

編集 相川 忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

10月2日(火)

まことの王座に座しておられる神

聖書朗読 イザヤ 6：1～13

ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿にみち・・・
イザヤ 6：1

「私は主を見た！」とイザヤ書6章の冒頭で述べられています。イザヤは、ウジヤ王が死んだ年に神様をはっきりと見た、と言っているのです。歴代誌第二の26章には、神様がウジヤ王を支えて下さったことが記されており、そのおかげでウジヤは政治的にも成功を収め、その評判は広く知れ渡りました。ところが、ウジヤ王は心が高ぶるようになり、自分勝手な判断をするようになりました。つまり、彼は神殿で香を炊いたのですが、この行為は本来祭司にだけ許された行為だったのです。こうしてウジヤ王は罪を犯し、ツァラアトを患うことになります。この病のためにウジヤ王は隔離され、やがて死にました。こうして、強大な権力を持っていたウジヤ王が死んだ後、イザヤはまことの王（神様）を見たのです。

現在の世の中にも、大きな権力をもった人々が大勢居ます。彼らは富や名声を持ち、社会に対して影響力を持っています。しかし、神様に勝る人間は、誰一人として居ません。時に私達も、(特に私達の人生が上手く行っている際には)ウジヤのように自信過剰になり、自分一人で何でも出来てしまうような錯覚を覚える時があります。しかし、神様に勝る人間は、誰一人としていないということを改めて覚えましょう。静まって、神様に心を向かわせましょう。まことの王座に座しておられるのは、私達の神様だけである、ということを改めて思い起こしましょう。

讃美歌 66

祈り 神様、私達はすぐに気が散ってしまいます。本当に大切なあなたに目を向けられるよう助けて下さい。他のことに心奪われることがないように、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アンドリュー・フィリップス
テネシー州コロンビア

10月3日(水)

神の教えに敏感になる

聖書朗読 エレミヤ 8：4～8

ヒソブをもって私の罪を除いてきよめて下さい。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗って下さい。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。

詩篇 51：7

エレミヤは、罪に対して鈍感になっている人達に対し、神様からのメッセージを伝えました。人々はもはや、悔い改めることすら十分にしなくなっていました。つまり、靈的に「危篤状態」とも言えるほど、彼らの心は健全さを失っていたのです。

人々は、自分たちの状態についてどれほど理解できていたのでしょうか。彼らは神様の法律をきちんと理解していると思っていました。しかし実際には、彼らは、律法を大きく歪んで解釈し、彼らが「これが律法だ」と言っていることは真の律法の意味から離れていました。ですから神様の視点からすると、彼らは御言葉を拒否していたと言えます。

拒否すると言うことは、重大な結果をもたらし得る行為です。拒否する人が誰であろうと、重大な結果に繋がる場合があります。ですからペテロも、イエス様を裏切らない(拒否しない)と言い張ったのではないのでしょうか。しかし、私達は皆、誘惑や罪に簡単に陥ってしまう存在です。しかし、だからこそ私達は、祈りやみことばに聴くことを大切にし、信仰の仲間たちと励まし合うことが必要なのです。そのように神に心を向け続けようとすることこそ、靈的成長のために必要な要素なのではないでしょうか。

讃美歌 333

祈り 神様、周りに流されてしまい本当に大切なことを見失いがちです。一番大切なあなたに心を向けられるよう、お導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルース・グリーン
アラバマ州オペリカ

10月4日（木）

失敗に終わった陰謀

聖書朗読 ダニエル 6：6～23

わたしのために人々があなたがたをのりし、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。
マタイ 5：11～12

ダニエルはダリヨス王が任命した三人の大臣の中で、最も賢い人でした。他の二人の大臣は、イスラエル出身でとても優秀なダニエルに嫉妬し、ダニエルを殺害したいと思いました。そこで彼らは、申し合わせて王の許に行き、「王以外の者に祈願したものは誰でも、獅子の穴に投げ込まれる」との法律を制定させました。

私達の視点からすると、この陰謀にはいくつかの欠点があることに気付きます。しかしダリヨス王は、王位について日が浅かったので、この法律が馬鹿げた法律だと気付くことが出来なかったのかもしれませんが。あるいは、法律の内容、つまり従わない者は獅子の穴に投げ込まれると言う残酷な内容を真剣に考えずに、法律制定のサインをしたのかもしれませんが。

ダニエルはこの法律には従わず、いつも通り、一日三回エルサレム方面の窓を開け祈り続けました。そして、法を犯したとして捕まりました。陰謀の首謀者たちは喜び、急いで王の許へ行き、ダニエルが法を犯したと伝えました。そして、ダニエルを拘束し、裁判すら行わず獅子の穴に投げ込んでしまいました。

しかし、神様はダニエルと共に居られました。ですので、ダニエルは獅子の穴に投げ込まれましたが、神様は獅子の口をふさぎ、ダニエルは無傷でした。これに心動かされた王は、今度は陰謀の首謀者たちとその家族を獅子の穴へと投げ込み、彼らは獅子に食べられてしまいました。王は、ダニエルが信じる神様こそが真の神であると確信し、国民にこの真の神様を信じるよう命じました。ダニエルの試練を思う時、（現在の私達のように）真の神を礼拝できる自由が与えられているということは、本当に感謝なことだと思います。

讃美歌 270

祈り 親愛なる神様、あなたを礼拝できる環境が与えられていることに感謝します。私達の信仰を一層強めて下さい。そしてあなたの御心に叶った働きが出来るよう、私達をお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

トラヴィス・アレン
コロラド州センテニアル

10月5日（金）

神様から常に注がれている愛

聖書朗読 ホセア 14章

知恵のある者はだれか。その人はこれらのことを悟るがよい。悟りある者はだれか。その人はそれを知るがよい。主の道は平らだ。正しい者はこれを歩み、そむく者はこれにつまずく。
ホセア 14：9

ホセアとその不貞な妻ゴメルとの夫婦関係は、古代イスラエル人の神に対する不忠実さのたとえとして聖書に描かれています。イスラエル人達に対する神様の愛は、いつも、いわば一方通行の愛でした。つまり、神様はイスラエル人達を常に愛し続けて下さいましたが、イスラエル人達は神様からの愛を軽んじていました。

イスラエル人達が滅びの道を辿っていたということは、ホセア書に記されている御言葉に見ることが出来ます。4:6では「わたしの民は知識がないので滅ぼされる」とあります。5:5では「おのれの不義につまずき」と書かれています。さらに、6:4～6では、神様への誠実な思いを持つことなく、形式的にいけにえを捧げようとしているイスラエル人が示唆されています。そして神に拠り頼むのではなく、周辺の国々に拠り頼もうとしているイスラエルの姿が描かれています(7:8)。彼らは真底まで墮落し、神様の道から完全に逸れます(9:9)、11:7を見ますと、異教の神を礼拝するイスラエルの罪が指摘されています。そしてホセアは神のことばを語るのです。14:1～2をご覧下さい。「イスラエルよ。あなたの神、主に立ち返れ。あなたの不義がつまずきのもとであったからだ。あなたがたはことばを用意して、主に立ち返り、そして言え。『すべての不義を赦して、良いものを受け入れて下さい。私達はいちびるの果実をささげます』」。さらに続けて、「わたしは彼らの背信をいやし、喜んでこれを愛する。わたしの怒りは彼らを離れ去ったからだ」(4節)とホセアを通して、神様は仰せになりました。そして次のように仰せになって、ホセア書が閉じられています。「知恵ある者はだれか。その人はこれらのことを悟るがよい。悟りある者はだれか。その人はそれらを知るがよい」(9節)。私達は、神様からの呼びかけに、耳を澄ましましょう。

讃美歌 517

祈り 親愛なるお父様、いつも御心に沿った生き方が出来るようお助け下さい。私達は弱く、よくつまずきます。しかし、いつもあなたが愛を持って助けて下さることを知っています。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

エディ・C・ルイス
ミシシッピ州オリーブブランチ

10月6日 (土)

聖 霊 の 働 き

聖書朗読 ヨエル 2：28～32

しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。 使徒 1：8

神様はアダムとエバをご自身の姿に似せて造られました。しかし、彼らはサタンの罠に引っ掛かり、神様に従いませんでした。彼らが犯した罪はこの人間社会の歴史の縮図です。私達は神様の命令に従おうとするのですが、私達の力だけでそれをしようとすると、失敗します。

ヨエルはそのことに気付いており、人間の弱さという問題の解決策を見出していました。それは、神様が聖霊を私達に与えて下さるという約束です。ヨエルは預言者として、聖霊が私達に注がれることがどんなに素晴らしい出来事であるかを述べています。

ヨエルの預言は新約聖書の時代に一部、成就されました。そして、今日も現在進行形で成就されています。使徒2:38では、バプテスマされて聖霊を受けなさい、とあります。そして聖霊により、私達の内なる人（霊的な面）を強くして下さい、とエペソ3:16には書かれています。つまり、御霊の力により、私達は罪が支配する生活から離れることができるのです（ローマ8:13）。このように、御霊は弱い私達を助けて下さるのです（ローマ8:26）。

御霊が私達を助けて下さるとは、何と素晴らしいことでしょう。私達はもう罪の奴隷ではありません。私達の罪はイエス様の血によってきよめられており、私達の内宿る御霊によって、力を頂いているのです。ですから「私達は、私達を愛して下さい方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです」（ローマ8:37）。

讃美歌 514

祈 り お父様、私達の罪のきよめのために、御子イエス様をこの世にお遣わし下さり、ありがとうございます。また、私達を助けて下さる聖霊を与えて下さり感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

リチャード・N・アディ
オレゴン州グresham

10月7日(日)

ヨ ナ の 慢 心

聖書朗読 ヨナ4章

主に祈って言った。「ああ、主よ。私がまだ国にいたときに、このことを申し上げたではありませんか。それで、私は初めタルシシュへのがれようとしたのです。私は、あなたが情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわざを思い直されることを知っていたからです。 ヨナ 4：2

ニネベはバビロン南部にあった12万人もの人が住む大都市でした。神様は人々があまりにも自分勝手に生きているので、彼らが悔い改めないのなら、町全体を住民も含め、破壊しようと思われました。しかしそうなさる前に、人々が悔い改めることを願って、ユダヤ人ヨナを遣わされました。ヨナの予想に反し、人々はヨナの預言を聞き、悔い改めたので、神様はニネベを滅ぼす計画を止められました。ヨナは気分を害して、ニネベの町を出ました。

どうしてヨナは気分を害したのでしょうか？ ヨナはニネベの町が滅ぼされることを望んでいたからでしょうか？ 或いは、自分の同胞つまりユダヤ人ではないニネベの人々に対して、何らかの偏見があったからでしょうか？ いずれにしても、ヨナ書は私達に非常に重要なことを教えています。それは、12万人もの人々が霊的な滅びに向かっているとしたら、私達はその人達の救いにもっと関心を持つべきだ、ということです。ヨナは枯れてしまったとうごま（日差し除けになった植物）のことで頭がいっぱいになりました。私達も、重要度が比較的低いことで頭がいっぱいになり、もっと価値あることに心を向けることを疎かにしてはいないでしょうか。

私達は、異文化の人々や異教を信仰している人々の救いにどれほど関心を持っているのでしょうか。時に私達は、異教の国々に対する神様の裁きだけを考えてしまうかもしれません。しかし、そういった国々に生きる人々の魂に思いを馳せたことはありますか？ 彼らの救いのために祈ったことはありますか？ 神様はどんな人であってもお救いになることが出来るということを、今一度思い起こすべきではないでしょうか（ローマ1:16）。私達自身の快適な生活だけに心奪われてしまうのではなく、まだ神様に会っていない、福音が必要な人達のために祈りましょう。

讃美歌 214

祈 り 親愛なる神様、まだ福音を知らない人々へ心向けられますように。私達が自分達のことばかり考えている時にはどうぞお赦し下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

H・グレン・ボイド
アーカンソー州サシー